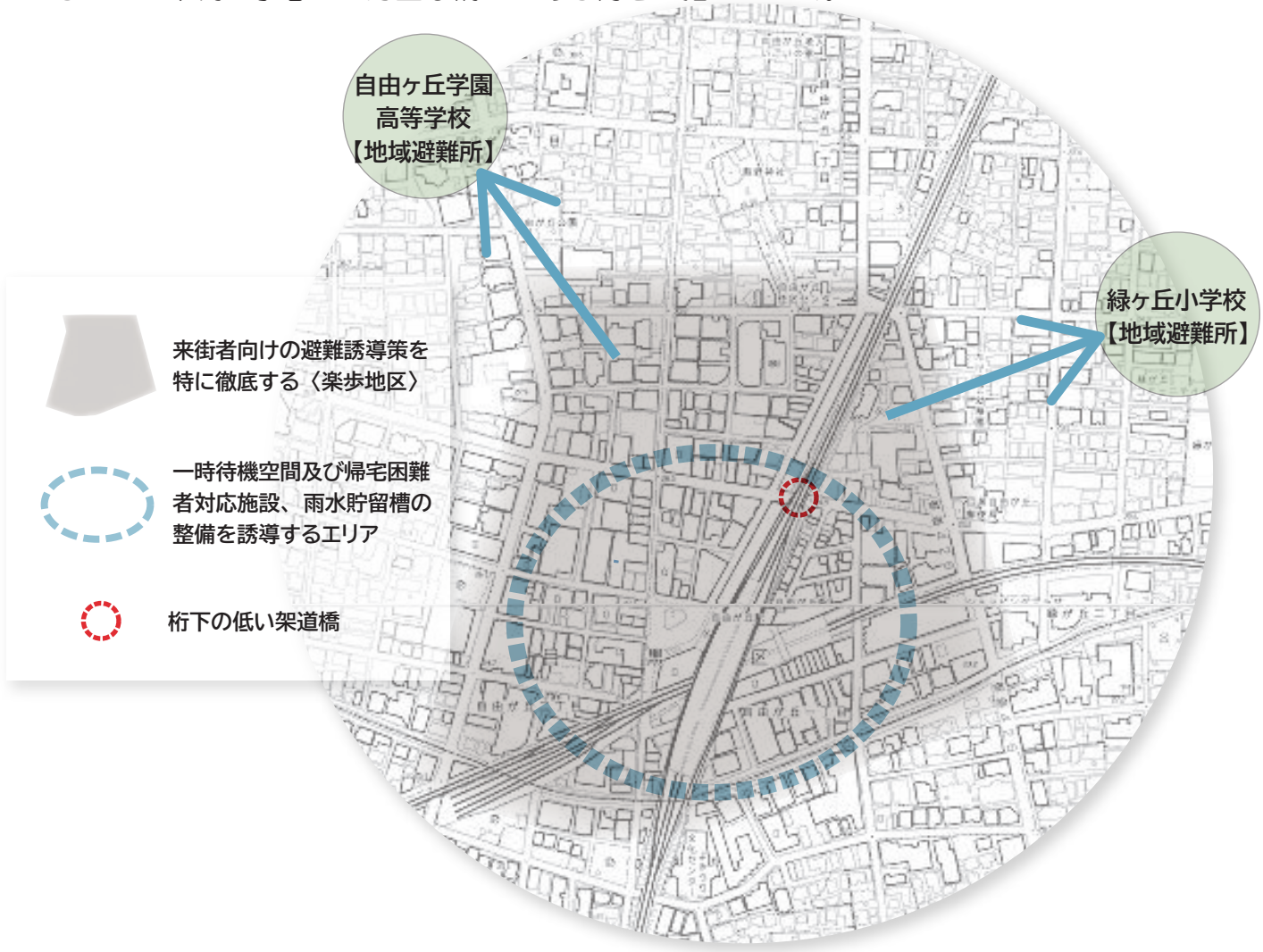
まちづくり目標 4

まちを利用する誰もが災害発生時に慌てずにすむ安心感をつくりだす……人を集めるまちとしての防災力の強化

自由が丘は数多くの居住者・就業者・来街者が利用するまちであり、〈楽歩〉や〈緑装〉などを通じてグリーン社会をリードするからこそ、避難を伴う大きな災害が発生した際における安全安心の提供が求められることから、ハード・ソフト両面の連携によって日頃から災害に強い街を目指していく。

方針①　緊急時における避難施設の整備促進および対応策の周知を徹底する

まちの更新に伴い、鉄道利用者を含めて駅周辺に滞在・滞留する人たちが、災害発生時において一時的に滞留する空間や帰宅困難状態になった際の受け入れ施設や備蓄倉庫の整備や誘導を図るとともに、避難マップの作成・配布により避難誘導策をテナント等に徹底することで不測の事態への万全な備えのある街を目指していく。

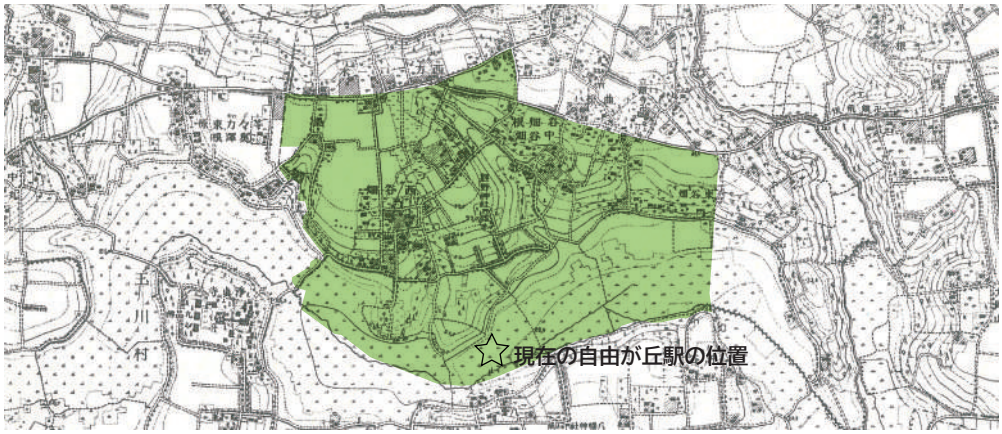


方針②　防災や減災に資する老朽建築物の更新・避難路の確保・緊急車両の通行確保に向けた取り組みを推進する

グリーン社会をリードするまちを標榜する自由が丘においては、災害からあらゆる人の命を守ることが求められる。
大地震の発生等による建物の倒壊や延焼の危険性を未然に回避するために、特に新耐震基準より前に建てられ、耐震性能の低い建物の積極的な更新を目指していく。エリアプラットフォーム（後述）を通じた耐震診断助成制度（目黒区）の活用支援策の紹介などにより、ビルオーナーの意識の啓発を目指していく。
また、災害発生時に電柱等の倒壊により地域避難所への避難経路が塞がれたり、復旧に要する車両の通行が妨げられることがないよう、避難路等における電線類の地中化の推進を目指していく。
また、架道橋のうち桁下が低く緊急車両の通行が不可な箇所について、長期を要しながらも道路と鉄道の関係改善を図ることで、緊急車両の通行が可能な将来を目指していく。

方針③　局所的・短時間での豪雨時に対する雨水排水策の強化と地下水によるリスク回避やその活用策を図る

緩やかな斜面地に形成されたまちであることを背景として、現状においては局所的・短時間での豪雨時に、道路上を流れる雨水が駅前広場等の周辺に溜まり冠水する状況が見受けられる。
まちの利用者の安全安心の確保に向けて、規模の大きな共同化（再開発事業）を行う地区においては、雨水排水施設の改善や地下空間を活用した雨水貯留槽の整備促進を目指していく。
また、駅周辺は市街化する以前において湿地のような場所であり、斜面地の地下を流れる複雑な地下水脈の存在が指摘されることを踏まえ、グリーン × デジタルの技術を応用による建物更新の際のリスク軽減策の確保や、地下水の循環やエネルギー活用を目指していく。



明治 42 年の地形図に未来ビジョン対象区域（約 76ha）を概ね重ねた図

現在の自由が丘駅はこの一帯では最も低い位置にあり、かつては田んぼであり、同時に斜面地の際（きわ）であることが確認できる。

まちづくり目標 5

進展するデジタル技術の活用により誰にも優しいまちをつくりだす……グリーン × デジタルを実装する市街地の形成

〈自由の思想〉に基づく進取の気性で醸成してきた比類ないまちブランドを維持・発展させていく観点から、とりまく新産業創造地域を背景に進展するグリーン × デジタルの技術を実装する、次世代型の商業スタイル・交通・エネルギー・物流等の様々な分野に係る先端的なまちづくりを目指していく。

方針①　先進的なデジタル技術の活用により住み働き訪れる一人ひとりに寄り添うまちの DX 推進を目指す

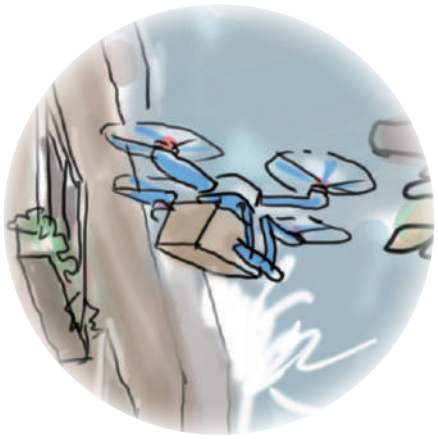
自由が丘において 2017 年に導入した地域限定の無線通信「地域広帯域移動無線アクセス（地域 BWA＝ブロードバンド・ワイヤレス・アクセス）システム」や、自由が丘駅周辺エリアを対象とした公衆無線 LAN「Wi-Fi スポット」を下地としながら、今後も進展していく情報通信に係る先進的なデジタル技術を活用しながら、一人ひとりに寄り添い、まちの価値となるグリーン × デジタルなまちづくり（＝まちの DX（デジタル・トランスフォーメーション））を目指していく。

具体的には、日常における商業活動の情報配信・決済、次代の交通システムへの活用、福祉・教育・防犯・防災への活用、エネルギーの最適化など、居住者、就業者、来街者、新たなビジネス交流人口といった今後の自由が丘の利用者に対する安全安心と便利さの向上に対する様々なデータ整備と活用を、公民連携を通して発展的に取り組み、深化させることを目指していく。

出典：国土交通省「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン」

方針②　エネルギー・交通・物流に関する先端技術をまちに実装していくことで新産業創造の交流拠点を目指す

建物を活用した発電やドローンを活用した物流など、現時点で想定される様々な分野での先端技術は今後も急速に進化していく中で、自由が丘にとって有益と考えられるエネルギー・交通・物流分野の技術については、まち自体をテストベッド（新技術の実証実験の場）として活用させながら、実装化を目指していく。
特に、自由が丘を取り巻く新産業創造地域との連携を図りながら、グリーン社会の実現に寄与する先端技術に関する多様なビジネスが交差する交流拠点を目指していく。



物流ドローン

空中ディスプレイ

自動運転のパーソナルモビリティ

一輪バイク

駐車時に折りたためるシティコミューター

建物屋上における物流ドローンポート

〈このページは空白ページです〉